

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

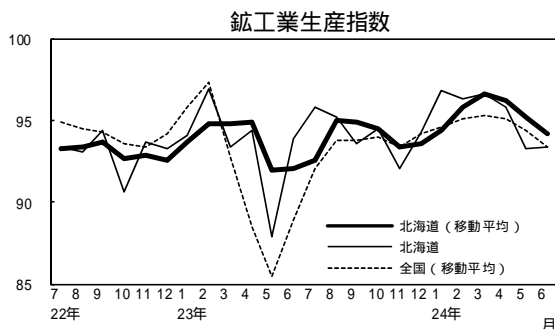
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 5 月)	今回 (平成 24 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	おおむね横ばい	
観光	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直し	
住宅建設	大幅に減少	増加	
雇用情勢	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を上回っている。
4～6月期は、生乳生産は、乳製品向けで増加したため、総量では996,307tと前年比0.9%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいかな等が増加したため、前年比139.4%増となった。
- (2) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。
食料品は、春先の天候不順が影響しビールの生産が低迷したため減少した。パルプ・紙は、情報用紙等が輸入紙に押されたことにより減少した。鉄鋼は、円高によりアジア向け建設資材や大型建機等の輸出が低調だったため減少した。電気機械は、デジタル家電向けの集積回路が低調だったため減少した。金属製品は、道内の農業用倉庫向けの生産が好調だったため増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品	23.9	1.3	2.3	1.9	0.9
パルプ・紙	10.7	3.2	1.2	1.5	1.7
鉄鋼	8.6	6.9	4.9	5.9	7.7
電気機械	8.4	3.2	6.3	3.9	8.4
金属製品	8.0	22.7	3.8	8.5	14.3
鉱工業	100.0	3.2	2.5	2.6	0.1

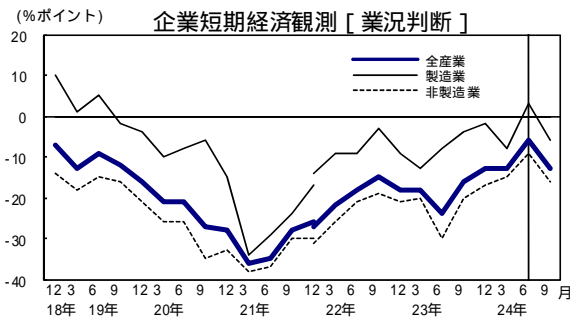
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期は速報値。

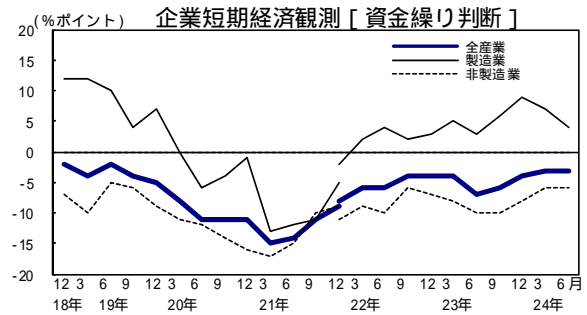
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

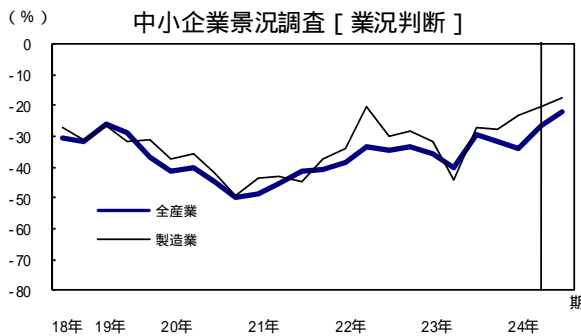
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

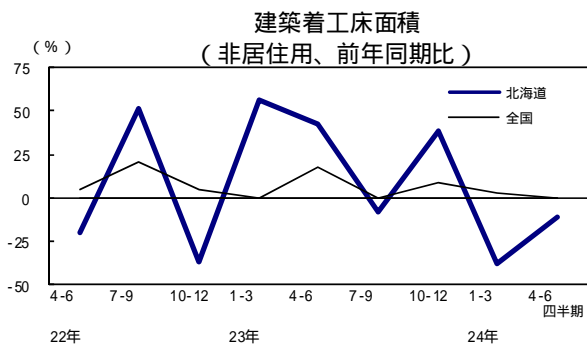
「このところ鉄骨加工が活況で溶接材料を始め消耗資材も順調に出荷している。一部の溶接材料は品薄状態にある(その他非製造業[鋼材卸売])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

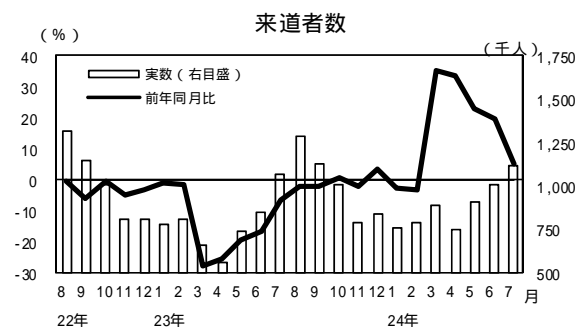
	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	12.7(3.1)	13.4(22.2)
製造業	12.4(4.7)	63.0(38.5)
非製造業	12.8(2.2)	15.4(7.9)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、緩やかに持ち直している。

来道者数は、前年の東日本大震災の反動により総じて増加している。4月は関東や関西をはじめ国内客が戻ってきたことから前年を上回った。5月は札幌 羽田線が増便となり提供座席数が増加したこと等から前年を上回った。6月は航空機材の大型化による提供座席数の増加に起因した旅客数増によって、前年を上回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額

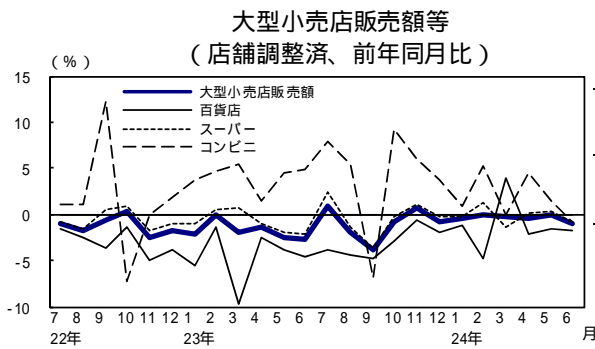
大型小売店販売額は、前年同期比で0.5%減、前期比で0.7%増となった。

百貨店は、4月は前半の春の嵐の影響などから前年を下回った。5月は日曜日が前年より1日少なかったほか、前年より地方客が減るなど来客数が減少したため前年を下回った。6月は天候不順の影響で夏物衣料の売上が低迷したこと等から前年を下回った。

スーパーは、ゴールデンウィーク以降の天候不順の影響で、夏物衣料やバーベキュー用食材の売上が低調だったことから前年を下回った。

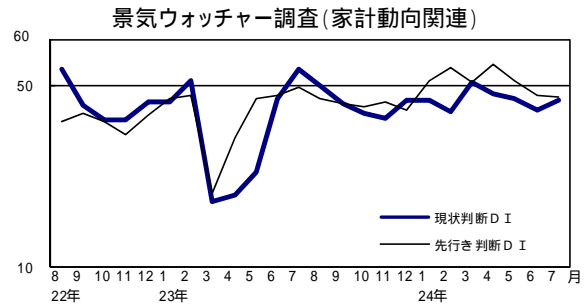
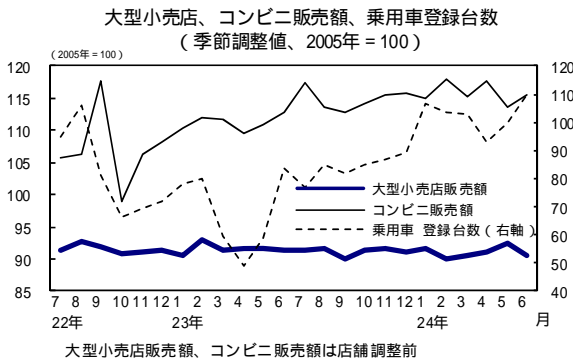
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「バーゲン月とあって売上増を期待していたが、スタートがバラバラだったこともあり、客の買物の様子が盛り上がっていない。買上単価も低く、2~3か月前の通常営業とほとんど変わらない(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	1.6	0.3	0.3	0.5
百貨店(*1)	4.2	1.8	0.5	1.8
スーパー(*1)	0.8	0.2	0.2	0.1
大型小売店(*2)	0.0	0.3	0.2	0.1
(季節調整値)(*3)	(0.6)	(0.3)	(0.7)	(0.7)
乗用車(*4)	11.8	25.0	48.7	55.8
(季節調整値)(*4)	(26.9)	(7.1)	(20.3)	(3.4)

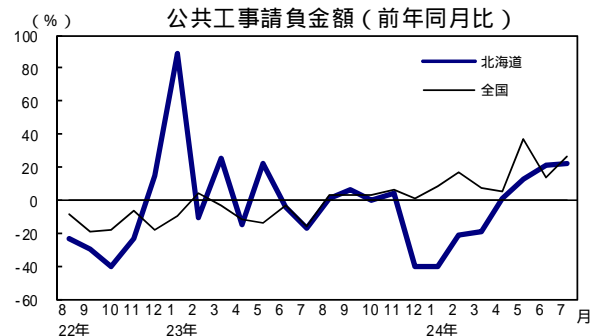
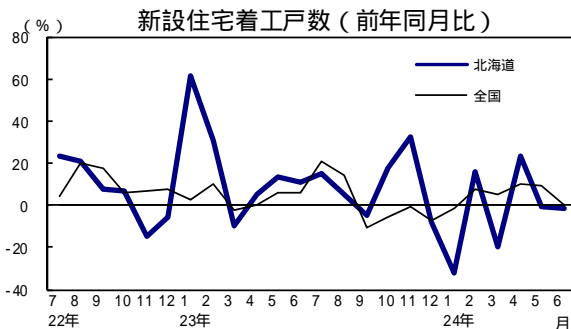
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期比(%)
 3. 店舗調整前、前期比(%)
 4. 乗用車は新規登録・届出台数
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

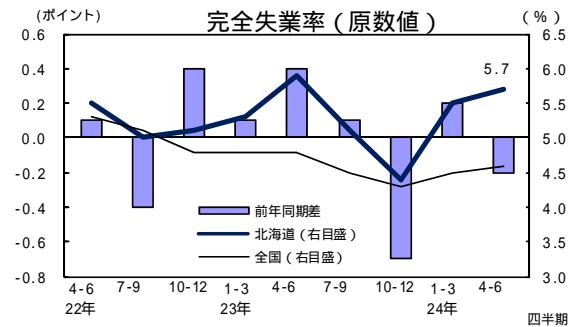
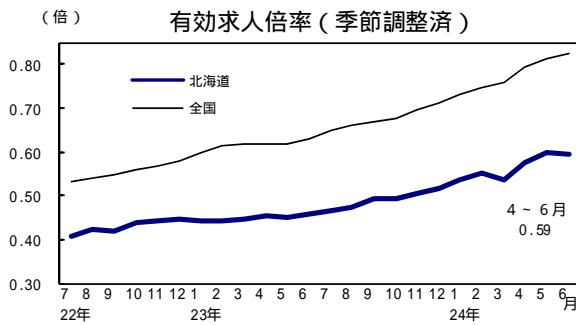


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

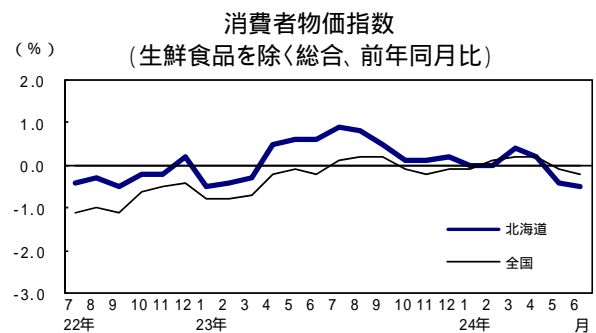
「観光客の回復が身近に感じられ、それによる経済効果は大きい。ただし、地元産業は弱含みの印象である (求人情報誌制作会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	104	102	135	124	33
(前年比)	6.3	4.7	8.0	0.8	2.9
負債総額	287	144	243	262	59
(前年比)	44.8	40.2	16.4	26.3	60.9



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・観光関連は、入込客数が東日本大震災前の水準に戻っている。設備投資は、医療福祉関連の新増設やメガソーラーの建設などで底堅い。建設関連では、震災復興需要もみられる。業種のバラツキはあるが、全体的には人手不足感も出てきている (金融業)。

<先行き>

・消費税の増税が可決されることになれば、2014年3月までに引き渡しできる物件については、確実に駆け込み需要が発生する。分譲マンションの場合は、客が欲しい場所で販売物件をすぐには買えないと限らないため、早めに購入することになり、増税が決まったら、すぐに駆け込み需要が発生するとみられる (住宅販売会社)。

景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

